

Argentina

アルヘンティーナ

No. 64



プエルト・マデロ、ブエノスアイレス (2012年11月撮影、水上駐亜日本大使ご提供)

一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2014年7月

「日本アルゼンチンタンゴ連盟」の発足にあたり
(飯塚 久夫) 2

アルゼンチンを一人旅 (小島 千尋) 3

釣り一至极の時～アルゼンチンでドラード釣り
(寺本 安久) 5

アルゼンチン政治経済短信 (荒尾 保一) 6

Resumen en castellano 8

協会の活動案内

～9月28日(日) 第3回親善サッカー大会の開催
..... 8

～11月14日(金) 当協会主催第25回
「タンゴ音楽の集い」..... 9

～埼玉春日部タンゴ・プロジェクト開催に向けて
..... 9

協会の活動報告

～3月14日(金) 第4回理事会開催..... 9

～3月14日(金) 第23回「タンゴ音楽の集い」..... 9

～3月15日(土) 第2回バービー・サッカー大会..... 9

～5月3日(土)、4日(日) シンコ・デ・マヨ・
フェスティバル (代々木公園) 9

～5月26日(月) 亜国ナショナル・デイ記念
レセプション (於:アルゼンチン大使館)..... 10

～5月28日(水) 第1回理事会/第2回定時総会
..... 10

～5月28日(水) 懇親会..... 10

～6月13日(金) 平成26年度「アルゼンチンの日の
つどい」(於:長田小学校) 11

～6月6日～15日(日) パプア・ニューギニア蘭写真
展..... 11

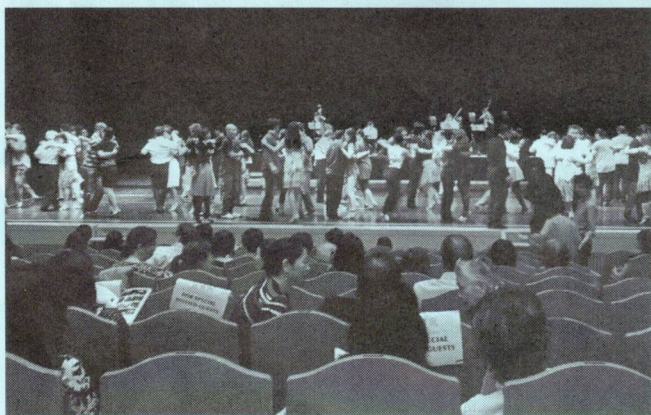
～6月20日(金) 第24回「タンゴ音楽の集い」
..... 12

日本アルゼンチンタンゴ連盟

Federacion Japonesa de Tango Argentinoの発足にあたり

飯塚 久夫

日本アルゼンチン協会のご尽力のおかげで当協会主催の「タンゴ音楽の集い」も6月20日をもって24回を数えるところとなりました。タンゴを巡ってはこの10年来の大きな動きとして、歴史上初めて（社交ダンスのタンゴでない）アルゼンチンタンゴ・ダンスが世界的ブームを続けているということがあります。その端緒は、1980年代からの“タンゴ・アルヘンティーノ”というダンス・ショーがパリでもブロードウェイでも大ヒットしたということでした。そして2003年、当時のブエノスアイレス市長が“タンゴ・ダンス世界選手権大会”を始めたことが世界中に大きな影響を与えました。世界100都市で地区大会が行われるようになり、東京でも2004年来、アジア大会が行われています。



2014アジア選手権大会—アジア側審査員はアルゼンチン人を含めて全て「連盟」会員

戦前はヨーロッパを中心に日本でもアルゼンチンタンゴ・ダンスが流行ったことはありましたが、いわゆる社交ダンス（ボールルーム・ダンス）の体系化によってアルゼンチン流は本場以外では忘れられることになりました。それが今またアルゼンチン流が比較的タンゴに縁遠かった北米を含めてタンゴダンスの本流になっているのです。

画期的なことは、従来、ダンス（特に社交ダンス）をする人はタンゴの音楽そのものを深く聴くことは少なかったのですが、このブームの貢献で、アルゼンチンタンゴのダンスを上手く踊るには、音楽もしっかり聴いてその情感をいかに表現出来るかが最も重要であるという認識が広まってきたことです。踊りと音楽の一体性というタンゴの原点が甦りつつあるのです。

ところが日本ではここ数年、こうしたタンゴダンス・ブームの再来とは裏腹に、いわゆる“クラブ・ダンス”

を中心にダンス営業を巡る風俗営業法問題が、クローズ・アップされることになりました。この法律は戦後間もない昭和23年に出来て、売春や麻薬を事前に取り締ることを目的としており、キャバレーやナイトクラブ、ダンスホールなどの営業も許可制としてきたものです。しかし、社交ダンス関係者の努力により、社交ダンスの二団体に所属するダンス教師や教室だけはこの風営法の規制を直接受けることはなくなっていました。いわば、自主的な民間団体が自己規制で秩序を保つというやり方です。そのやり方を社交ダンスの二団体だけでなく、他の（男女が組んで踊る）ペア・ダンス（タンゴやサルサなど）営業にも適用するという風営法改正が一昨年11月末に行われました。

その一方で、麻薬や近隣被害などによる“クラブ”の風営法違反による摘発が頻発しました。この風営法問題に対処するには、アルゼンチンタンゴ・ダンスを営業としている人（教師）たちも法人を作って、その法人が国家公安委員会の（教師の講習と試験）認定機関となることを迫られました。そうすれば、社交ダンス二団体と同じように民間自主規制の世界になるわけです。しかし、教師も生徒もミロンガ（アルゼンチンタンゴの踊り場）主催者も、今まで何も無くてよかったのに、何故今更、団体なんか作る必要があるのだ？と疑問の渦がわきました。アルゼンチン人で日本をベースにダンス教師をやっている人もいます。とりわけそうした人たちからすると、風営法でダンスを縛るなんてとんでもない！ということですよ。本当は、風営法はダンスを規制しているのではなく、あくまでその営業行為の規制なのですが、そんなことは簡単に分かりません。

タンゴ関係者の中で喧々諤々の議論が続きました。そして行き着いたのは、風営法規制から免れることもさることながら、より大事なことは、この日本が“タンゴの第二の故郷”とまでいわれる所以は何か？それまでラテンアメリカ人でないと取れなかったサロン・ダンスの世界チャンピオンを日本が輩出出来たのは何故か？などをよく考えながら、タンゴの本質を日本でもっともっと大事にしていこうという認識の一致です。

紆余曲折はありましたが、この4月1日、アルゼンチン人も含め、一般社団法人「日本アルゼンチンタンゴ連盟」が設立されました。それが教師講習・試験の認定機関にもなり、何より世界無形文化遺産にもなったタンゴの日本における普及・発展の中心組織として

活動していこうという理念も確立しました。この法人の目的は『アルゼンチンタンゴの普及と健全な発展に貢献するため、タンゴに係る音楽・舞踊文化の高揚を図るとともに、タンゴダンス教師、ダンサーの育成と質の向上及びタンゴ教授所の業務の適正化、並びにアルゼンチンをはじめとする諸外国との交流親善の促進に寄与すること』としました。

ブエノスアイレス市文化大臣のエルナン・ロンバルディ氏、そして1961年にフランシスコ・カナロと共に来日した踊り手の重鎮エドゥアルド・アルキンバウ氏も連盟の名誉顧問になってくれました。

この連盟の設立に当たっては、当協会の荒尾保一、

寺本安久両常務理事に並々ならぬお世話になりました。当協会の一般社団法人化のことを大いに参考にさせて頂きました。皆さまにも広く御礼申し上げると共に、今後「日本タンゴ・アカデミー」を含め、アルゼンチン文化の一層の発展のため、お互いの協力を心よりお願いして本稿を結ばせて頂きます。

(いづか ひさお)

日本アルゼンチンタンゴ連盟会長

日本タンゴ・アカデミー会長

当協会理事)

アルゼンチンを一人旅して

小島 千尋

～旅が好き。観光じゃなくて、旅がしたい。世界中のあらゆるモノを見て回りたい。出会い、感じたい。私の旅への原動力は、いつもそうした好奇心から始まる。女一人旅。母を心配させる好奇心。それでも旅への思いは止まらない。～

旅を始めるきっかけは、高校2年生のときに友達にオーストラリアに行かないかと誘われたことでした。多感なお年頃の17歳。バスでラジオが流れていたり、電車が2階建てだったり、そんなことに一つ一つ感動したのです。自分が知っているモノが全てじゃないんだ、世界は広いんだ、と。それから、私の目は常に世界へ向くようになりました。

「とりあえず南米に行ってみよう！」

今回の旅も、そうして幕を開けました。当初私にとってアルゼンチンは、そんな突発的な旅のルートに組み込まれた一カ国に過ぎませんでした。

だからこそ、何も知らなかったのです。アルゼンチンとはどんな国なのか？どんな人が住んでいて、どんなものを食べていて、どんな文化があって、観光名所は??? 良くも悪くも固定概念というものがなく、ひたすらガイドブックを片手に、時間が許す限り各地を回ることにしました。2013年4月5日、チリのプエルト・モンからアルゼンチン入りし、サン・カルロス・デ・バリローチェ、プエルト・マドリン（バルデス半島）、サルミエント（ボスケ・ペトリフィカード）、コモドロ・リバダビア、ペリト・モレノ（クエバ・デ・ラス・manos）、エル・チャルテン、エル・カラファテ（ロス・グラシアレス国立公園）とバス移動し、チリのプンタ・アレーナス（パイネ国立公園）経由で世界最南端の都市ウシュアイアまで。その後はフライトで一気にブエノス・ア

イレスまで飛び、ウルグアイに立ち寄りながらプエルト・イグアスへ行くというのが、自分で立てた計画でした。弾丸と云えど約2週間掛けて南下したパタゴニアも、フライトではたったの3時間半。あっという間にブエノス・アイレスに到着してしまったときは、大自然から突然大都会へ放り込まれたような、なんとも不思議な気持ちになったことをよく覚えています。予習もせず、知識の土台もない私にとって、アルゼンチンもまた、目に映る全てのものが色鮮やかでした。

ところで、いくら色気が無いと言われる私も一応は女性。一人旅をしていると、よく聞かれることがあります。「今まで危険な目にあったことは無いの?」という質問。よく、というか、ほとんどの人が必ずと言って聞いてくる質問です。もともと運の良い私。今回の旅においても、ブラジルのリオで一度カメラを奪われそうになったくらいで、その他みなさんが心配するような危険な目にはあいませんでした。ただ一つ、忘れられない事件があります。それはパタゴニアの田舎町ペリト・モレノにて起こりました。

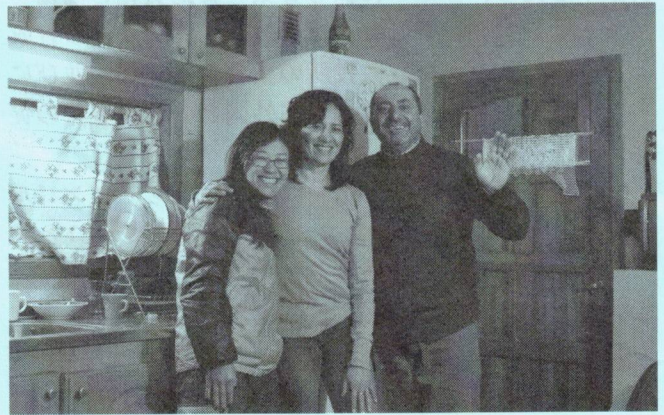


ロス・グラシアレス国立公園

シーズンオフに入ったばかりとはいえ、パタゴニアのローカルバスの本数がぐっと少ない4月中旬のこと。行く先によってはバスの運行も1日に1本のみなんてザラ。ペリト・モレノ行きもそのような状況で、夕刻コモドロ・リバダビアを出発し、終着点のバスターミナルに到着したのは夜23時を回っていました。「めっちゃくちゃ寒い!日本の2月並みの寒さじゃん!!」状況によってはバスターミナルで野宿してしまえばいいやと安易に考えていただけに、その芯まで凍りそうな寒さに、急いで宿を決める必要性を感じました。バスに同乗していた人々が徐々に散りはじめ、タクシー乗り場で震えながら一人タクシーを待っている時、それを見かねた現地のお兄さんが声を掛けてきてくれました。いつタクシーが来るかわかったものじゃない。彼の親切に甘えることにしました。そして事前にメモしていた安宿に向かってもらったものの、なんと不在。彼の知っている他の宿を訪ねてみては「今は閉めている」と断られ、その後見つけたホテルも「今はレストランのみ」と断られ・・・ガイドブックに掲載されていた高級ホテル2軒さえ「悪いけど満室で」と断られてしまいました。この時すでに30分以上彼を引きずり回していた私。「どうにかしなきゃ!!」という思いで、最後に向かったホテルのフロントのおじさんに、泣きつきました。「ねーどうしたらいい!?外は寒くて無理!自分の部屋なんて無くてもいい、このソファでもいいから!お金なら払えるからー!!!」スペイン語なんてそう多く知りませんが、ミュージカルでスポットライトを浴びた主演のように、大げさな表情と動作で気持ちを訴えることに。そんな努力の甲斐あって、なんと従業員用の家に泊めさせていただけることになったのです。もちろん宿泊料もタダ!こうして、なんとかこの旅一番の危機的状況から脱却することができました。

私は、いつも良い人に出会うと言われます。それは事実かもしれません。この他にも、夕刻道を一人歩いていけば、見かねて宿まで送り届けてくれる人もいれば、家でお茶をしてくれないかと招待してくれる家族、食事をご馳走してくれる家族、道案内をしてくれる人、写真を撮りたいと言えば、フレンドリーに接してくれる人たち・・・アルゼンチンだけでも親切な人にたくさん出会いました。不思議なことに、そんな彼らの多くは現在でもSNS (facebook) を通じて繋がっています。車でずっと宿探しをしてくれた彼もその一人。「何か困ったことがあれば是非助けよう!私は日本人のキミを歓迎する!また戻っておいで!」と言ってくれます。旅をしていて感じることは、世界における日本人への評価の高さです。こうして世界を自由に旅できるのも、これまでの日本人のお陰だと思いと感謝してもしきれません。また私はなるべく良い人に出会えるように努めています。その方法は、自分がいつも「笑顔で、正直で、親切で、挨拶やお礼がきちんとと言える人」でいることです。彼らにとってもまた「良い人に出会った」

と思ってもらえるような人になることが、その秘訣であると思っています。



自宅に招いてくれた夫妻@ウシュアエア

さて、私がアルゼンチンを訪れて、すでに一年以上経過しました。ブラジルのリオのカーニバルを皮切りに、ペルー、ボリビア、チリ、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイと7カ国のほとんどを長距離バスで回り、気が付けばあっという間にタイムリミットの3ヶ月が経過。まだ帰国したくないと強く思っていたことを懐かしく思います。笑顔と元気をくれた人々、感動を与えてくれた風景、生きていることを喜びに感じさせてくれた新鮮な感情。価値ある3ヶ月だったと思えるのも、こうした私の旅をより充実したものにしてくれたすべての存在のおかげだと感謝しています。そしてそんな旅を成し得ることができたのは、この旅を心配しながらも見守ってくれた家族や友人たちのおかげでもあります。特に母には感謝しています。旅の計画を伝えた際、「そこまでして行かなきゃ行けないところなの?」と泣いていた母。それでも旅立ちの朝には「気を付けて行ってらっしゃい!」と笑顔で送り出してくれました。そんな風に、毎回心配しながらも理解し応援してくれる母には、できる限り毎晩Eメールを送り旅の状況を伝えることで、安心してもらえよう心掛けていました。そうして私は、心配を掛けつつも感謝の気持ちを忘れず、これからも大好きな旅を続たいこうと思っています。

～「ブエン・ビエヘ!」誰かが手を振りながら私を送り出す。寂しい気持ちを抱きつつも、視線は次の町へ。だってその先でいつも「オラ!」と笑顔で私を迎えてくれる誰かが待っていてくれるから。～

(こじま ちひろ:旅人、アマチュア写真家)

釣り—至極の時

～アルゼンチンでドラード釣り

寺本 安久

趣味といってもそれほどのことは無い。ズブの素人である。釣りを始めたのは、1990年代のアルゼンチン駐在時代で、ラプラタ川の川釣りである。

釣る魚は「ドラード」と呼ばれる魚で、どう猛で引きが強く、70～80センチ級を釣り上げるまではワクワク感でいっぱいになる。この魚釣りに一時夢中になった。

ブエノスアイレスから片道約1,000KMのパラグアイに近いラプラタ川上流まで車で前日の夜出発し、朝の8時ごろに釣り宿に到着する。すぐにボートに乗り、釣り場に向かう。

そして釣り糸を投げ込む。その間、寝る暇はない。道路に照明はなく、対向車もほとんど無い曲がりくねった夜道を時速100キロ以上で車を飛ばす。一応のアスファルト道路ではあるが、相当危険が伴う運転かもしれない。しかし、何度も往復しているうちにどこに穴があり、どのようにカーブを切るか自信が出来たようだ。そこまでして、どうして釣りに出かけるのか？である。

ブエノスアイレスは、南米のパリと言われるほどの大都会である。東京に住んでいるのと全く同じ都会生活である。いいところ悪いところはいろいろあるが、何か物足りなさを感じるようになっていた。自然のにおい、かおり、色と風。

アルゼンチンは、山、海、川、パンパなど大きな自然を満喫できる環境が整っている。

そんな時に、隣の国のパラグアイを旅行し、「ドラード釣り」を体験した。

よし!!自然が豊富なアルゼンチンで「ドラード釣り」をやってみようと思うようになった。

「ドラード」釣りは、細かい釣りテクニックはいらない。素人でも十分楽しめ、ダイナミックな釣りが味わえる。10キロ級に耐えられる竿、糸。10センチ前後のドジョウに似た生餌をつけて、下流に流し釣りをする。「がつつん」ときたらさっと竿を上げるだけだ。

その時、ドラードが飛び跳ねる。太陽光線がうろこにあたり、キラッと金色に輝く。

「ドラード」とはスペイン語で「金色」を意味する。まさに黄金の魚をゲットすることになる訳だ。

ラプラタ川の上流でも主流の川幅は300mを超える。釣りスポットが大事で、船頭さんの世話になる。本流から支流、上流から下流にその日のスポットを捜し求め、あちこちボート操縦する。本流の中には「中ノ島」

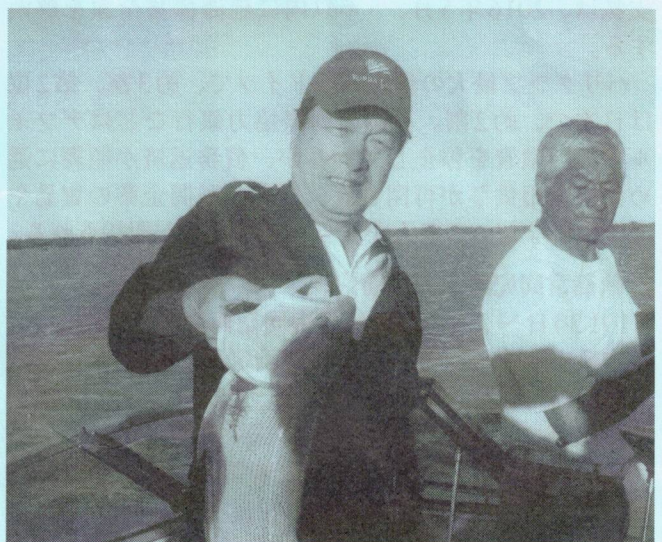
と呼ばれる島がたくさんある。その島には、水牛が飼われており、ボートが近づくと全頭が顔をこちらに向ける。水鳥も種類が豊富だ。

たまには猿の家族と出くわす。驚いてギャギャと大声でさわぐ。自然いっぱいの光景が目の前で味わえる。勿論、魚は「ドラード」だけではない。一番数が多いのは「ピラニア」。そのほか「なまず」「パクー」など種類は豊富だ。「エイ」などもいる。「ワニ」の子がかかったこともあった。

車を運転しながら自然を味わうことができる。ひとつは、いつでも満天の星空——ミルキーウェイ——が味わえる。もうひとつは、日の出のすばらしさ。

アルゼンチンは、パンパと呼ばれる大草原地帯がある。まさにこの草原の中の一本道を通行するわけだが、大きな太陽がパンパの奥から顔を出すその風景は、感激!!

至極の楽しみは、午前中に釣り上げた「ドラード」を中の島でバーベキュー昼食をとる事だ。ブエノスから持ってきた「しょうゆ」をちょっとたらすと最高の味に仕上がる。これに赤ワインを飲みながら、焼きたてのドラードを!!一人一匹はたいらげる。満腹感のあとは、眠気が急に襲ってくる。午後の休憩となり、静かな時がたつ。



午後日が落ちるまで釣りをする。宿に帰ると、真っ暗。宿では釣り仲間と釣り談義となる。

ビール、ワインで乾杯。早いところご就寝。次の日は早い。

2日目も同じことをする。但し、昼一番で出発。ブ

エノス帰りは深夜。次の日は会社に出社。

大変な釣りの日程で辛いのだが、何度も繰り返し繰り返しその場所に行ってしまうのは、自然が楽しめ、おいしいものが味わえる「都会では味わえない楽しさ」があるからであろう。

釣り本来が好きなのではなく、釣りプラスの味わいという事になるかもしれない。

日本に帰国し、どうしてもこの味わいが懐かしくてしょうがなく、昨年ブエノスには一泊だけして、後は自然いっぱいのいわゆる田舎で一週間過ごし釣りに興じた。日本では、釣り講釈華やかで自然と一体感のあるダイナミックな楽しみをなかなか味わうことが出来ないが、昨年小田原の早川でマグロ釣りをを行い、一本

ゲットできた。ドラードとマグロは全く違うが、「引く力は同じかな」と思った。

ゴルフと釣りの違いは、ゲーム終了後、「お土産 - 釣果」があるかどうか。あまり数を釣り過ぎるとワイフに「誰が調理するの?」と怒られますが。

釣りテクを勉強してこれからもいろいろ楽しみたいと思っています。

(てらもと やすひさ：当協会常務理事)

(上記は、マッキンゼー・ビジネス・スクール会報に投稿されたもので、寺本氏の了承を得て転載するものです。)

パリクラブ債務返済合意

— 亜国政治経済短信 —

荒尾 保一

1. アルゼンチン パリクラブ債権団と債務返済につき合意
亜国の最近の明るい話題は、5月29日、亜国キシロフ経済相とパリクラブ（主要債権国会議）との間で、2001年のデフォルトによって生じた延滞債務の返済について合意に達したことである。

全延滞債務97億ドル（2014年4月30日現在）

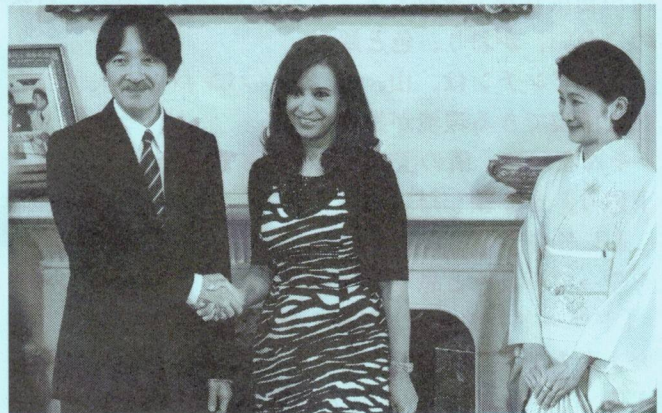
2015年5月までの支払最低額は、11.5億ドル。次の支払は、2016年5月、5年以内に延滞債務全額を解消する。

パリクラブ最大の債権国はドイツで、約3割、第2位は日本で、約2割。日本の国際協力銀行などはデフォルト後、融資を停止しているが、債務返済が順調に進めば、信用供与が再開され、日本の民間企業の貿易や直接投資などへの参入が容易となることが期待される。

2. 秋篠宮同妃殿下亜国訪問

1月30日～2月3日、秋篠宮同妃両殿下が訪亜され、日本政府と亜政府との間の移住協定発効50周年記念式典に出席された。また、両殿下はサンマルティン広場での献花フェルナンデス大統領表敬（ティメルマン外務大臣同席）及びブドゥー副大統領主催晩餐会（同外務大臣同席）に出席された他、在留邦人、JICA シニアボランティア及び日系社会青少年ボランティア・日系社会シニアボランティアとの御接見、ニッカイ共済会診療所御視察、在亜沖縄県人連合会会館での日系団体歓迎行事御出席、国立ラプラ大学自然科学学部付属博物館御視察、フアン・カルロス・パジャロルス銀細工工房御視察、サンテルモ地区の「のみの市」等御視察、

エスタンシア「ラ・パストリサ」（注：ブエノスアイレス市から南南西約100キロに位置する1,400ヘクタールの壮大な農園）御視察、国立農牧技術院（INTA）花卉栽培研究所御視察等に臨まれた。両殿下の今次亜国御訪問は1998年の日亜修好100周年記念の御訪問に続く2回目であった。



秋篠宮・同妃殿下 フェルナンデス大統領を表敬

3. 佐々木幹夫日亜経済合同委員会委員長 フェルナンデス大統領と会談

3月14日、佐々木幹夫三菱商事相談役（日亜経済委員会会長）は、フェルナンデス大統領と会談した（カピタニッチ官房長官、キシロフ経済相、デビード公共事業相、ジョルジ産業相同席）。

なお、第23回日亜経済合同委員会は、今年12月5日、ブエノスアイレス市において開催される予定。

4. 日本 亜国産かんきつ類の輸入承認

日本の農林水産省の規則が改正され、低温処理を条件として、今後、亜産スウィートオレンジ（ワシントンネーブル種、ラネラーテ種及びサルスティアーナ種）及びマンダリン（クレメンティン、エレンデール、マーコット及びノバの生果実）の対日輸出が可能になった。亜国外務省は、プレスリリースにおいて、2014年2月7日、日本は亜国の甘いかんきつ類に国内市場を開放することを承認した。日本は、これらの亜産かんきつ類に対し、これまで市場を閉ざしていたが、10年前から亜外務省及び亜農畜産品衛生管理機構（SENASA）が共同で市場開放に取り組んできた。日本との交渉の結果、亜産かんきつ類の品質及び国内で実施される衛生管理並びに品質管理の優秀さが漸く認められた。この日本市場開放は、アルゼンチンで甘いかんきつ類を生産する生産者らにとって、日本というハードルが高く且つ大規模な市場へ輸出する可能性を開くものであり、地方の経済、特に北西部及び北東部の所得向上にもつながるものである。亜政府は、「亜産かんきつ類が日本という重要な市場の消費者の下へ届く可能性が開かれたことに対し、日本国政府の協力に感謝する。この輸入解禁は、確実に両国の利益につながるであろう」と表明した。

5. 亜政府 レプソル社と株式接収に関し合意

2月25日、亜政府は、スペインのレプソル社との間に、2012年4月に接収したYPF社の株式に関し、50億ドルの国債を付与とする賠償の最終合意に達した。

この補償のために亜政府が発行する国債は、Bonar24債（32.5億ドル、償還期間10年、金利8.75%）及びBonarX債（5億ドル、償還期限2017年、金利7%）、Discount33債（12.5億ドル、償還期限2033年、金利8.28%）となっている。

なお、YPF社とシェブロン社は、バカムエルタ鉱区のシェールガスの開発について、170本の油井の試掘を含む16億ドルの共同投資を行うこととなった。

6. 次期大統領選候補の動き

アルゼンチンでは、2015年に大統領選挙が行われるが、この選挙への立候補を目指すと思われる主な政治家の動向次の通り。

(1) シオリ プエノスアイレス州知事

ペレス メンドサ州知事、クロス ミシオネス州知事、ウルトゥベイ サルタ州知事などと相次いで会談し、与党又は与党支持の州知事と連携し、PJとしての連携を強化するための努力をすることについて協議した。

また、2月、ニューヨークにおいて、200以上の企業及び投資ファンドと会合し、アルゼンチンの経済情勢について明るい展望を示し、投資を招致する活動を行った。

(2) マサ下院議員

マサ下院議員（刷新戦線 Frente Renovador 前ティグレ市長）は、反政府のペロニスタの大統領候補と目されているが、3月、米国を訪問し、米政府関係者、市長、企業家等との会合に出席し、直接大統領選挙への立候

補は明言しなかったものの、自らがアルゼンチンの政治的変革を主導するとの意思を表明した。

(3) マクリ プエノスアイレス市長

同じく3月、ニューヨークを訪問し、米国ユダヤ人会議主催の夕食会、主要銀行エコノミスト等との会合に出席し、意欲的な態度を示したと言われる。

(4) サンス急進党党首

サンス急進党党首は、記者会見で、「2001年以前に存在していた2大政党制は、交代、相互コントロールの期待を社会にもたらしめていた。2015年に向けて、急進党は野党の超党派の枠組みの背骨でなければならない。自分は、大統領候補となる覚悟をきめている。」と語った。

7. 経済の動き

(1) 実質GDP

3月より、亜政府は、GDP基準年などのGDP統計の計算方法を変更し、2013年の実質GDP（INDEC発表）を、前年比3.0%増と発表した。ただし、この数値は、暫定値であり、7月に改訂値が発表される。

なお、IMFは、世界経済見通しにおいて、アルゼンチンの2014年の実質GDP成長率を0.5%、2015年を1.0%と発表した。

(2) インフレ率

INDECは、4月の消費者物価指数は、前月比1.8%と発表した。対前年同月比のインフレ率は、2013年12月で、10.1%となっている。2014年1月より、新しい統計方法による消費者物価指数が発表されるようになり、新指数による前年同期比の数字が発表されていない。

主要民間コンサルタント8社の推計値は、前年同期比39%の上昇となっている。

(3) 株式市場

プエノスアイレス証券取引所上場銘柄で構成される時価総額加重平均指数（メルバル指数）は、2013年7月で約3,000であったものが、2014年5月には、6,800程度に急上昇している。

(4) その他の指数

自動車生産台数 前月比3.2%増

（前年同月比 40.0%減）

為替レート 4月末 8,0015ペソ = 1ドル

外貨準備 282億ドル

貿易収支 3月 輸出 5,253百万ドル、

輸入 5,211百万ドルで、42百万ドルの黒字

（前年同月比 91.8%減）

（あらお やすいち：当協会 常務理事）

Resumen en castellano

Por Irene Gashu

Federación Japonesa de Tango Argentino (p. 2)

Por Hisao Iizuka

El 1ro de abril de 2014, se constituyó una sociedad civil denominada "Federación Japonesa de Tango Argentino". De esta manera, las actividades relacionadas con la difusión y el desarrollo del tango argentino en Japón quedarán excluidas del alcance de la Ley de Control de los Negocios que pueden afectar a la Moral Pública. Son asesores honoríficos de la Federación, el ministro de cultura de Buenos Aires, Sr. Hernán Lombardi y el gran bailarín profesional, Sr. Eduardo Arquimbau que visitó Japón en 1961 con Francisco Canaro.

Viaje sola por Argentina (p. 3)

Por Chihiro Kojima

Me gusta viajar. En 3 meses, recorrí 7 países de Sudamérica. En ómnibus fui a Bariloche, el Bosque Petrificado, la Cueva de las Manos, los Glaciares y Ushuaia. Con frecuencia me preguntan: ¿No es peligroso que una mujer viaje sola? Al contrario ya que en mis viajes, siempre me encuentro con personas buenas. También es cierto que yo me esfuerzo para conocer gente buena. Sonríe. Trato de ser honesta y amable; saludo y doy las gracias.

Pesca del dorado en Argentina (p. 5)

Por Yasuhisa Teramoto

Pescar un dorado es una experiencia muy emocionante.

En los años 90, viajaba mil km en auto desde Buenos Aires hasta cerca de la frontera con Paraguay. Sin descansar, me subía a un bote y me ponía a pescar. El estar en contacto con la naturaleza, asar y comer un dorado recién capturado, ver la puesta del sol, son algunos de los placeres que no pude olvidar. El año pasado, estuve una semana en el interior de Argentina... pescando dorados.

Acuerdo con el Club de París (p. 6)

Por Yasuichi Arao

1) El 29 de mayo, el ministro de economía, Axel Kicillof, y el Club de París firmaron un acuerdo por la que Argentina cancelará la totalidad de su deuda en 5 años. 2) El príncipe Akishino y su esposa, la princesa Kiko, visitaron Argentina en ocasión del 50 aniversario del Acuerdo de Migración entre ambos países. 3) El 14 de marzo, el presidente del Comité Mixto Empresario Argentino-Japonés, Mikio Sasaki, se reunió con la presidenta Cristina Fernández. 4) Japón ha autorizado la entrada al país de cítricos argentinos bajo tratamiento de frío. 5) El gobierno argentino y Repsol alcanzaron un acuerdo por el que Repsol percibirá 5.000 millones de dólares como compensación por la expropiación de YPF en 2012. 6) Actividades de los futuros candidatos presidenciales, Daniel Scioli, Sergio Massa, Mauricio Macri y Ernesto Sanz. 7) Comportamiento económico: PIB real, porcentaje de inflación, mercado de valores, otros índices.



協会の活動案内

～ 9月28日 (日) 第3回親善交流 サッカー大会の開催

本年はサッカー・ワールドカップで燃えた年、茨城県境町立長田小学校児童生徒さんの熱い期待もあり、次の要領で第3回目の親善交流サッカー大会を開催することが決定。

日時：9月28日 (日) 11:00～17:00

場所：三菱養和会 巢鴨スポーツセンター・サッカーグラウンド (JR 巢鴨駅前)

試合内容：

(1) 小学生の部：低学年、高学年2チームが参加。長田小学校、養和会サッカー・チーム、都内子供チーム間で試合。

(2) 成人アマチュアの部：日本VSアルゼンチンの親善試合を前提に有志によるチーム編成で試合。

備考：

1. 試合観戦は無料。
2. 大使館の協力を得て、アルゼンチンからサッカー関連グッズを取り寄せる等して、子供たちへの副賞とするなど、充実した楽しい大会をすすめる。
3. 前回好評だったアルゼンチン焼き肉料理 (チョリパン、ロミート等) の店を指定された場所に出店する。(昼食など食事はピッチ内では禁止されているので、指定された場所で行います。弁当持参可)

4. 優勝カップの授与

主催／協賛／協力：共催者：在日アルゼンチン大使館・
日本アルゼンチン協会
協賛社：三菱商事（株）
協力：茨城県境町・同町立長田
小学校・三菱養和会
問い合わせ先：（一社）日本アルゼンチン協会
電話：03-6809-3681
FAX：03-6809-3682
e-mail: nippon@argentina.jp

～ 11月14日（金）第25回「タンゴ音楽の集い」開催予定

毎回多数の参加者を得て好評を頂いている当協会主催の「タンゴ音楽の集い」。

今年のテーマは、「タンゴ—映画で見るその歴史と音盤で聴く魅力を対比する」で、その第3回目です。ご期待ください。

場所はこれまで同様、当協会旧事務所隣の光和ビル「新橋フォーラム」地下2階大ホールで18:30からです。JR新橋駅から徒歩3分です。

～ 埼玉春日部タンゴ・プロジェクト（仮称）の開催に向けて

当協会は、アルゼンチン文化、世界遺産アルゼンチン・タンゴの普及のため様々な活動を幅広く行ってきました。2012年度よりは、特に地方市町村の皆さんにタンゴを親しんで頂くため、2012年は湘南地区の真鶴町で、2013年は茨城県境町でアルゼンチンタンゴ・ショーを開催し、ともに地元の皆さんに大変喜んで頂いた次第。

今年は、埼玉県春日部市で秋（9月～11月）に、同様のアルゼンチンタンゴ・ショーを開催に向けて、地元関係者と企画策定に入っている。

企画概要が決まり次第、皆さんに報告します。

協会の活動報告

～ 3月14日（金）第4回理事会開催

一般社団法人としての新定款に基づき、第4回理事会を開催し、平成26年度事業計画及び予算並びに新規会員の入会が承認された。また代表理事及び業務執行理事の業務実施状況が報告された。

～ 3月14日（金）第23回「タンゴ音楽の集い」

本年のテーマは、「タンゴ—映画で見るその歴史と音盤で聴く魅力を対比する」で、今回はその第1回目。貴重な映像と音源を、当協会理事の飯塚久夫氏の名解説、名トークで聴き、見て、馴染みある演奏家の演奏映像、曲で、60名を超える参加者はタンゴに堪能した夕べであった。

～ 3月15日（土）第2回バービー・サッカー大会

昨年8月の第1回に続き、第2回バービーカップが、埼玉スタジアム第4グラウンドで、開催された。茨城県境町立長田小学校から高学年の部にA/B 2チームが参加した。

好天に恵まれ、大勢の観戦者の中、選手たちのファ

イトあふれるプレイの連続で時間のたつのが“アツ”という間であった。長田Aチームはグループの4位、Bチームは優勝を争うも、残念ながら2位であった。

小柄の小学生プレイヤーが、ヘッディング・シュートをやり、より早くボールをキープしキックする姿には感動した次第。

当協会は、主催者側と長田小学校間をコーディネートし、藤田業務執行理事が当日観戦した。

～ 5月3日、4日（日）シンコ・デ・マヨ フェスティバル2014 一代々木公園

アメリカ大陸で最大のお祭り「シンコ・デ・マヨ フェスティバル2014年」が、代々木公園イベント広場で盛大に開催された。

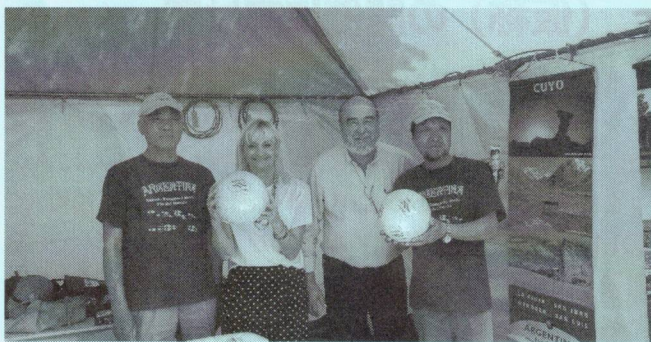
北米、南米大陸のほとんどの国が参加して、各国で味わえる食べ物、飲み物が楽しめるだけでなく、各国の歌、ダンス、音楽演奏が盛り沢山のお祭り。

在日各国大使館は、それぞれテントを構えて自国を紹介、PRされた。

アルゼンチン大使館は、テント店頭でアルゼンチン観光資料等取り揃え、来場者に提供すると共に、本国から取り寄せたサッカー・ボールを50個用意して、サッカー関連のクイズを実施し、4問正解者にボールを差し上げた。

テント前には、クイズ参加希望者の長い列ができ、来場者の人気を引いた。

当協会は、大使館からの要請を受けて、3日、4日両日共に理事2~3名大使館テントに出向き、大使館関係者と共にテントでの活動並びにアルゼンチンのPRに終日協力した。



大使ご夫妻と亜国をPR



サッカー・クイズ参加に長い列

～ 5月26日（月）アルゼンチン・ナショナル・デイ記念レセプション

アルゼンチン・ナショナル・デイ（建国記念日）を祝うレセプションがデジャン駐日アルゼンチン大使主催で、5月26日（月）18：30から約2時間に亘り、大使公邸で盛大に催された。

大使からの招待状を受けて、各方面から多数の招待者が集まり、アルゼンチン料理とワインで記念日をお祝した。

当協会から木島理事長を初めとし役員6名が招待を受けて、出席した。

～ 5月28日（水）平成26年度第1回理事会/第2回定時総会

平成26年度第1回理事会が、在日アルゼンチン大使館小講堂において、16：00から開催されて、平成25年度事業報告並びに平成25年度収支決算報告が承認されると共に第2回定時総会の目的事項の4議案が原案通り承認・可決された。

引き続き、17：00から同場所に於いて、第2回定時総会が開催された。

冒頭、議事に入る前、友国会長より、この会場を提供して頂いたデジャン駐日アルゼンチン大使に対し深甚なる謝意が表明された。

高安常務理事から、現在の登録正会員は法人会員18社、個人正会員85名、合わせて議決権総数は103個、うち、出席正会員は36名、委任状提出が39名、合わせて議決権を有する出席総数は75個で、過半数を上回っており定足数を満たしているため、総会は適法に成立している旨報告された。

第1回理事会で承認・可決された4議案がそれぞれの担当理事から説明があり、全ての議案が滞りなく承認・可決された。

議題の審議が全て終了後、友国会長より、昨年12月他界された故中野恵正常務理事に対し、同氏の当協会への多大の貢献を感謝すると共に、改めて同氏のご冥福をお祈りする旨述べられた。

～ 5月28日（水）懇親会

第2回定時総会終了後18：30より、恒例の協会会員懇親レセプションが、デジャン大使のご厚意により大使公邸サロンで約2時間に亘り開催された。

デジャン大使のご挨拶、友国会長のオープニング・スピーチ、引き続き山田 彰外務省 中南米局長のご挨拶と乾杯のご発声で懇親会がスタートした。



デジャン大使の冒頭ご挨拶

例年好評で人気高い当協会顧問で著名なタンゴ演奏家、京谷弘司氏率いる四重奏団のタンゴ演奏で始まり、今年は特別にアルゼンチン生まれの日系2世大城バネサ嬢（2001年NHKのど自慢アルゼンチン大会で優勝、2002年NHKのど自慢グランド・チャンピオン大会で海外勢初のグランド・チャンピオン）が並はずれた歌唱力で声量豊かに演歌を披露。アルゼンチン大会時のNHKアナウサー宮川康夫氏が当時のビデオを持参して、流暢な司会でバネサを紹介すると、会場はもはや熱気で一杯。タンゴが内包するセンチミエント（情感、哀感）と演歌が内包する望郷、哀愁は日本人の琴線を揺さぶる共通のものを感じた次第。

再び、京谷四重奏団の第2ステージ、東北盛岡より懇親会参加の山本江梨子さん（バイオリニスト）とも

コラボし、さらには、ピアソラの曲も出て生演奏をじっくりと聴きながら、木島理事長の中締めと会は進む。

デジャン大使ご夫妻をはじめ、150名を超える参加者には、楽しい宵のひと時を満喫して頂いたものと思います。

また、大城バネサ嬢の一層のご活躍を祈り、応援したいと思います。



京谷弘司タンゴ四重奏団



大城バネサ嬢の活躍を祈って

～ 6月13日（金）長田小学校 平成26年度「アルゼンチンの日 のつどい」

友情（愛）と国際交流を大切にして、国際社会で活躍できる人材の育成と、自国文化や異文化の理解を深めることを大切にしている茨城県境町立長田小学校。

昨年はアルゼンチン交流80周年と長田小学校恒例行事「アルゼンチンの日のつどい」の25回目を記念して、境町・長田小学校共催で記念事業を実施した。

本年も第26回「アルゼンチンの日のつどい」が、6月13日（金）11:00から、ラウル・デジャン大使ご夫妻を迎えて盛大に行われた。

アルゼンチン大使館から、ラウル・デジャン大使、テレサ・デジャン大使夫人、マリアンヘレス・デジャン大使令嬢、セシリア・リソロ2等書記官、イバン・ダ・ポンテ3等書記官、長谷川ジョシイ大使夫人アシスタント、矢島 萌職員（通訳）が到着、倉持勝美新校長、先生、職員、全校生徒が暖かく「ビエン・ベニード！」で迎えた。



アルゼンチンとの友好功労者野本 勇作氏、境町からは、町長、議会議長、副議長、教育長が来賓出席、当協会から加藤・寺本・藤田理事の3名が出席して、11:20から4年生50名との歓迎昼食会（給食会）で「集い」の対話が始まった。

生徒から来賓者全員にもケンダマが渡されたところ、大使から「ケンダマは苦手なので、食事に時間かかってしまうから、別途しましょう」と発言されながら、大使の前で上手にケンダマを操る生徒と競いケンダマに夢中になる大使に拍手。



13:00からは昨年秋新装改築された体育館で交流集会。

生徒代表がスペイン語で歓迎の言葉、生徒から大使へ、大使から生徒へと記念品の交換、2か月有余に亘る練習の成果の歌、踊り、体操を1年生から6年生までが披露。テレサ夫人ははしゃぎ、生徒達の中に入りこまれて、一緒に肩を組み写真を撮られる姿がたいへん印象的でした。

～ 6月6日（金）～ 15日（日） イレーネ賀集「パプアニューギ ニアの蘭」写真展

イレーネ賀集さんは、「会報」のResumen en castellanoをいつも作成協力して頂いている当協会の理事。アルゼンチンと同じ程にパプアニューギニアが大好きな方。

国を代表する「蘭」の花をテーマにした写真展を開催されました。麗しの写真約30点が、さまざまな「蘭」の花をみごとに開花させていました。

イレーネ賀集さんは、2002年、2005年、2013年とパプアニューギニアの奥地にある「クレーター・マウ

ンテン野生生物管理地域」を訪れた。ここは電気も水道も道路も未だありません。気候は高地のジャングル地帯で、夜は赤道直下とは思えないほど寒くなります。また一年中ほとんど毎日雨が降るので、植物は大変よく育つ。

このような環境下で、小さな蘭たちが人知れずひそかに暮らしている姿は印象的です。

～ 6月20日 (金) 第24回「タンゴ音楽の集い」



協会ホームページの活用 及び E-メール通信の件

1. ホームページ (URL:<http://www.argentina.jp>)
何らパスワードの入力は不要で、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来ますので、ご活用ください。

2. E-mailアドレス

nippon@argentina.jp が、協会の E-mail アドレスです。

アルゼンチンに関わる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えする為、E-mailアドレスを連絡頂いている会員の方にはメール通信を始めております。

このメール通信をまだ受信されていない方で、受信をご希望の方は、住所、氏名及びメール・アドレスを当協会メールアドレス宛 (nippon@argentina.jp) 発信、ご連絡下さい。次のメール通信から送信致します。

ご連絡頂きましたメール・アドレスは、当協会の情報伝達関係以外の用途には使用致しません。

ご質問その他お問い合わせある場合は、協会事務所宛お電話ください。

電話：03-6809-3681 担当：阿部

当協会理事飯塚久夫氏によるサウンド・映像と解説トーク、今回は今年のテーマ「タンゴ映画で見るその歴史と音盤で聴く魅力を対比する」の第2回目で、6月20日(金)18:30から、いつもと同じ場所、光和ビル「新橋フォーラム」地下2階大ホールで、50名を超える参加者を得て、和気あいあいの中、タンゴとトークに心酔した宵となった。

今回は、22曲を披露。最初は、ビルヒニア・ルーケ(先日86歳で逝去)の「ブエノスアイレスの歌」で始まり、最後は「ラ・クンパルシータ」。この2曲は「カフェ・デ・ロス・マエストロス」の中での作品で、圧巻で大変素晴らしいものでした。

住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-6809-3681 FAX: 03-6809-3682

E-mail: nippon@argentina.jp

平成26年度 年会費納入のお願い

本年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日迄)の年会費のお支払いがまだお済みでない方は、早めにお支払手続きを済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第64号 2014年7月24日発行

発行人 木島 輝夫(当協会副会長兼理事長)

編集長 加藤 勝巳(当協会常務理事)

編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒108-0073

東京都港区三田2-7-16 協和三田ビル3階

電話：03-6809-3681

FAX：03-6809-3682

E-mail：nippon@argentina.jp

URL：<http://www.argentina.jp>

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート

編集長よりの御礼

フロント・ページの写真は、ブエノスアイレス市にご在住の水上市駐在大使からご提供頂きましたフォトです。

執筆、原稿につきましては、飯塚久夫様(日本アルゼンチンタンゴ連盟会長、日本タンゴ・アカデミー会長当協会理事)、小島千尋様(アマチュア写真家)寺本安久様(当協会常務理事)にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー(Resumen en castellano)は、イレーネ賀集さん(当協会理事)に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。